

平成25年度 研究科長と大学院生との懇談会

学部・研究科（学府）等名：大学院看護学研究科

実施日時・場所：平成25年11月6日（水）17：30～18：00
第1講義室（看護・医薬系総合教育研究棟）

参加学生数：博士前期課程学生9名（1年次生6名、2年次生3名）
博士後期課程学生5名（1年次生3名、2年次生1名、3年次生1名）

懇談会の概要：

研究科長挨拶の後、懇談が行われた。懇談内容は以下のとおり。

- Q 研究方法論を統合的に学ぶ授業があるといいと思う。
A 平成27年度に向けて、大学院のカリキュラム改革を予定しており、研究方法論を系統的に学べる授業の導入を考えている。
- Q ツインクルプログラム等のグローバルな人材プログラムに看護学研究科からの参加が多くなればいいと思う。
A もう少し周知を図って多くの方が参加できるようにしていきたいと思う。
- Q 亥鼻祭等で図書館の休館日が長く続く場合は、取り置きの間も長くするなど配慮してほしい。
A 取り置きについては図書館に改善をお願いします。
- Q 博士前期課程の院生室について、2年生になったときに自分の分野の方々（前期課程学生、博士後期課程学生等）の話を聞く機会があるといいので院生室について検討いただきたい。
A 教員のなかにも、同じ専門性の人たち同士で情報を共有したり励ましあったりする環境がいいという考え方と、多分野の中で情報を共有することでやっていったほうがいいという考えがあります。これから詰めていきたい。
- Q 研究方法の中に統計的な手法のコースワークみたいなものがあるといいと思う。総合情報センターのSPSSの講習について亥鼻キャンパスでも開催してほしい。
A 総合情報センターに要望を伝えます。
- Q 博士後期課程学生同士の横の繋がりがほしい。また海外の先生の英語による授業の機会等作ってほしい。
A 海外からの招聘の先生をお願いし、英語による授業を行うようにしていきたい。

Q 研究費の獲得について、分野の中、他の分野からの情報交換の場が院生主催でもいいからあったらいいのではないか。

A 院生の人たちの力を借りて開催をできたらと考える。

Q リフレッシュコーナーの使い方についてルール、モラルが乱れている。

A 文化祭の実行委員会等学生たちにフィードバックし、大学としてのルールを明確にしていきたい。

Q 海外の協定校等の院生との交流があればいいと思う。助成金制度やプログラム等で決まったものがあれば参加しやすくなるのではないか。

A 大学院生にはグローバル化を進めるために、海外に目を向けて、海外の人々と交流し、研究力、実践力をつけてもらいたいので、大学院生を対象とした海外への短期派遣プログラムを作りたいと考えている。

Q 国際プログラム博士前期課程の科目について、留学生と一緒に英語で授業を受けることはとてもいいことなので、一緒に学んでいきたい。

A 検討していきたいと思います。

Q 意見箱のようなものがあれば口では言えないことも文章で要望が伝えられると思う。

A アンケートを実施し、紙面にて意見を聞くようにしたい。

Q 総合大学の強みを生かしながら他分野の方の知識を学びたい。外国語科目等、亥鼻地区でもっと開講してほしい。

A イングリッシュハウスの亥鼻版についてもこれから整備していく予定です。またALCの英語教材についても活用してほしい。